

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ILO★		公表日		令和 8年 2月 14日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		利用児の特性や成長過程に合った空間を準備している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		各部屋の壁を色分けしてこどもたちに分かりやすくしています。また、床にジョイントマットを敷き、安全面に配慮しています。部屋との境は段差はありませんが、トイレやはバリアフリー化がなされていないため、タイル面にマットを敷く等して工夫しています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日の清掃や窓を開けてサーキュレーターを回す等、適宜換気を実施しています。また手指消毒を行いやすいように各箇所に固定し設置し工夫をしています		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		プレイルームや静養室はいつでも誰でも使用できるように開錠しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		リーダー制を取り入れ、プログラム立案や行事の振り返り等、職員朝礼や会議にて話し合い、改善に努めています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		朝礼や申し送り、職員会議の場を活用し、職員の意見等を把握しています。また、年に1度個人面談を行い、意見を聞く場を設け、業務改善に繋げるよう努めています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		中部学院大学山内康彦先生（ガイダンスカウンセラー・特別支援学校専門職修士）による第三者評価を行っている。業務全般は、もちろん、虐待防止委員会や身体拘束適正委員会についても第三者としてメンバーに入ってもらい、指導・助言を受けている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		法人内研修の機会を設けたり、外部研修では、研修内容や職員の経験等に合わせて平等に受講する機会を設けています。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページに公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		事業所での様子や保護者様からの聞き取りを基に事業所で作成したアセスメントを実施しています。また定期的にアセスメント、全職員での評価を行い、それらを基に計画作成を行っています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		計画書作成前に全職員で会議を行っています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		ソフトを取り入れることで、すぐに確認できる環境作りを行っています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6				

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			ローテーションでその日のリーダーが中心となって多職種からの意見をもらいながら活動の立案を行うよう努めています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6			ローテーションでリーダー制を取り入れる事で固定化しないように工夫しています。外部講師を招いたり、教室へ行ったりしながらリトミック活動も取り入れています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			毎朝の職員朝礼を通してリーダーを中心に活動内容や役割分担を確認しています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			翌日の職員朝礼にて行っています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			日々、支援計画に沿ったその日の記録を徹底しています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			6ヶ月に1度モニタリングを全職員で行っています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			選択肢を設けることで、こども自身が選びやすくなるように努めています。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			多職種からの意見も取り入れながら児童発達支援管理責任者が取りまとめて参加している
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1		以前利用していた事業所や発達支援センターとの連携を行い、情報の共有を行っています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			学校の年間計画表を基に行事・下校時刻など学校によっては、アプリ等を使ってその都度確認しています。また、送迎時に担任の先生との情報交換を行ない学校からの連絡事項やお子様の情報を確認しています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			長期休暇を利用し、こども園との交流会を行う事ができた。また、行事（ハロウィンイベント）には、近隣事業所と生活介護事業所と交流を図っています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2		相談支援員を中心とし、必要に応じて担当者会議や電話連絡、情報提供を行なっています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	3		地域の児童発達支援センターとの連携やスーパーバイズ、助言等を受けていません。今後、必要に応じて検討していきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	2		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			送迎時間や電話等、家族が話しやすい環境作りに配慮し、情報共有を行っている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6		家族に対しての研修会はできていないため、今後検討して行きます。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に説明を行い、運営規定、重要事項説明書等を事業所の見えやすい箇所に設置しております。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		送迎時や、電話やメール等を用いて、必要に応じ行っています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		6		父母の会やごきょうだいと一緒に参加できるイベントの企画を行っていくよう努めてまいります。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	1	日々の連絡帳を通して活動内容は伝えているが、専用ソフトを導入し、活動や行事の写真を掲載準備中です。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		入職・退職時は必ず誓約書を取り、留意しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		必要に応じて手話やカード等を活用しています。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2		現在は地域住民を招待する行事等は行っていません。必要に応じて今後検討していきます。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		マニュアルは策定しているが、訓練について十分でない部分もある。また、保護者様への周知は十分にされていないため実施して行きたいと思います。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCP作成済み。災害避難訓練は実施していますが、救出等の訓練は不十分なため実施して行きたいと思います。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		アセスメントシートにて服薬状況を確認しています。また、てんかんの有無も確認しています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			現在該当児童はいませんが、今後該当児童の利用があれば行って行きたいと思います。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			安全計画は策定していますが、訓練について十分でない部分もあるため、改善に努めます。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止に関する研修会参加者による伝達報告会やオンライン研修を活用しています。	今後も毎月のチェックリストを活用し、職員一人ひとりが虐待に関する意識を高められるよう取り組んでいきます。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6			